

「家が劣化するよ、費用で落とすことにも抵抗を感じるという、」と語るように、公抗を感じるとい、「そんな会社平さ」へのこだわりがそ



はせがわ・こうぞう 71年(昭46年)早大商中退。73年(昭48年)早大商中退。設立。「ゼスト」など「ラ・ボエム」「権八」なを海外含む60以上の飲食店を営。神奈川県出身。59歳。

は中学生のころ。学校の成績が低迷し、うつ病のような状態になった。勉強しなければ周囲に認められない」との結論に達した少年は目標を毎晩何十回も唱えて自身を鼓舞したと振り返る。

大学に進んだものの、会社の「歯車」となることに違和感を感じ、2年で大学を中退。欧州放浪の旅に出た。1年半、血洗は向上心を大切にす

「外食の道を徹底するしか道はない」と覚悟を決めたのはこのころだ。決めたのはこのころだ。店番の合間に就業規則を作るなど会社の土台を整えた。

さらなる曲折は99年の上場時。保有株を社員に分け与えていたところ、売却して独立する幹部が相次ぎ、人材不足に見舞われた。それでも長谷川は向上心を大切にす

「One'sアイ」を活用

み、室外に排出。外気を利用し室外から取り入れた冷気でサーバーを冷やす。

現在、主流のセンター向け空調はサーバーから発生した熱気と冷気が混ざることもあり、非効率も指摘されていた。外気も指摘されていた。外気も活用するシステムも

だ少なく、新開発品では大幅な効率化が見込めるという。

新開発品は空調機1台単位でユニットとなっており、複数の空調機を使用する大型データセンター内の一部のサーバーだけを対象に設置することも可能。価格は120万円。初年度は20件の受注を目指す。

河村電器産業はサーバー収納ラックなどを手がけ、サーバーの排熱に技術を持つ。今回、ラスコの空調制御技術と自社技術を融合し、初めてとなる空調システムを開発した。

約2坪。部屋の面積は約4.6平方メートル。全重量は約1600キログラムで、パネルの下支えをする板に注水式の10キログラムの重り21個を載せれば強風でも倒れにくくなるという。防災用品としての利用のほか、イベントでの臨時受付、宿泊場所などとしても利用できるという。

価格は50万円前後にする予定。One'sアイが別途開発を進めている簡易トイレとともに、自治体などに販売。初年度は1億5000万円の売り上げを目指す。

2人で30分組み立て

One'sアイ 防災用を想定

仮設トイレ製造・One'sアイ(大甲市、斎藤栄三社)仮設多目的ルームを開発、3月かです。大人2人で組み立てられ、

保管の際は細かく分解できるため場所も取らない。仮設トイレや風呂、避難場所といった防災用品としての需要を見込む。業務提携先の段ボール製造、アクト石原(大阪

市)に製造を委託する。プラスチック製段ボールに薄いアルミ板を張り合わせたパネルや、取り付け金具など54の部品を使用。外形は屋根付きの八角柱をしており、高さは

語学教育事業のワンズワード(東京・江東、松岡祐紀代表取締役)はイ

スカイプで英会話

講師にフィリピン人

ワンズワード

インターネット電話サービスの「スカイプ」を利用した英会話レッスンを始めた。場所代が必要ないことや、同社が審査したフィリピン人を講師に採用することなどでレッス

費用を抑える。入会金は無料で月額料金は6800円。初年度は会員数1000人を目指す。

新サービス「ワンズワードオンライン」はフィリピン人の講師とネットを通じて1対1の英会話講習を受けられる。入会後はテストを実施して実際に応じた教材を指定する。1レッスン50分、最大5回まで受講できる。予約は専用ホームページで受け付け、レッスンは午前6時から午後11時まで。無料のグループレッスンもある。

北海道ニーズ

鮮魚用の

〈会社概要〉
北海道羅臼町知昭町429の6
水産資材の販売・レンタル、鮮魚用の氷の製造・販売
2001年11月
11人
8億3000万円
(2009年12月期見通し)

▽本 社
▽事業内容
▽設 業 員
▽従 業 上 高
▽売 上

従来、漁業者や水産加工会社が使った氷は漁業協同組合がつくり、販売してきたが、道東部ではサンマや秋サケの漁期に当たる8、11月には氷が足りず、本州からも不足分を取り寄せて補充状況が続いている。

製氷事業への進出は2004年。ミール(魚粉)工場の廃屋を活用するなど

小粒で商品保護、野菜

どの製造だ。

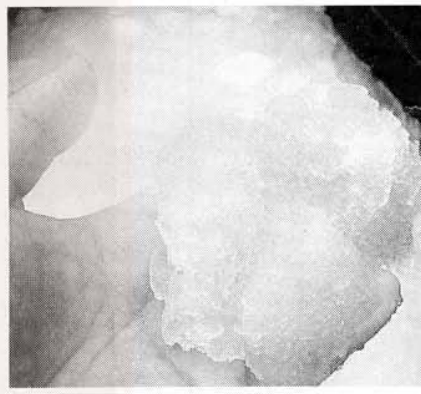
水は粒が小さいほど解ける時間が早く、容器の中の水や魚を急速に冷やせて鮮度保持の効果が高い。形も丸ければ魚体を傷つけにくい。商品価値を高め、ブランド強化を目指す漁協が積極的に採用し始めた。

トレーラーで漁港などに運び、製氷する事業を10年春から始める計画。同社を中心に7社・団体で「雪氷」と冷やした海水を混ぜてシャーパーット状の水にする装置などの開発を進めている。野菜の鮮度保持のため、産地の農業協同組合への売り込みも視野に入れる。

設立10年目を迎え、製氷事業は売り上げの第2の柱に育ってきた。09年12月期の同事業の売上高は前期に比べ約6%増の約1億7000万円を見込む。

ただ水産業は自然環境の変化や漁獲量に左右されやすく、同社の経営も同じ。将来の株式上場を目指すうえで、利益を着実に上げられる経営基盤づくりと新たな人材の確保、組織づくりが求められている。

(釧路支局長 磯員守也)



「雪氷」と海水で作ったシャーパーット状の氷



補正機能は100万台超の携帯に搭載されている

取引先に迷惑をかけたこと

「特許について社内意識は低い。創業約5年で0

解説

家や中小食品加工会社向けにネット販売を支援する業務を始めた。同社が

が要望すれば自身で書き込むことも可能。収穫時の風景や食品の製造工程

